

石橋中学校区

【目指す子ども像】

地域とつながり社会に貢献できる子ども

【実践研究課題】「心の教育」

教育活動全体を通じて、居がいのある学級・学校づくりを推進し、児童生徒の自己肯定感を高め、豊かな情操と道徳性を備えた社会に進んでよい行いができる子どもの育成

各部会の取組

<学習指導部会>

【児童生徒の実態】

- ・小学校…家庭学習の取組や学習内容、学習環境に個人差が見られる。論理的に説明することに苦手意識のある児童が多い。
- ・中学校…主体的な学習や話し合い活動に課題がある。自己肯定感が低く、自分の考えを的確に表現することに苦手意識のある生徒が多く見られる。

【部会のねらい】

- ・居がいのある学級・学校づくりを推進し、児童生徒の自己肯定感を高める。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・居がいのある学級・学校づくりを推進し、児童生徒の自己肯定感を高めるために、ペアや小集団の学習を取り入れた学び合いの授業を実践し、授業力を向上する。 ・小中一貫教育9年間を見通した学習習慣を整えるために、各校の「学習の決まり」(授業の受け方や発表の仕方など)を持ち寄り、統一できるところは統一を図っていく。 ・家庭学習の取組を強化するための方策を考え、実践する。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「学力向上推進リーダー」の助言のもと、小学校4校で同様の取組ができ、小小連携が進んだ。そのため、授業力が向上した。小・中学校ともにペアや小集団の学習を取り入れた授業を実践し、学力の向上と居がいのある学級づくりができた。 ・「学習の決まり」は、小学校については、同じようなものがあり、統一できた。 ・小・中学校が家庭学習強調週間を同時期に設定し、実践できた。パワーアップノートの提出率が向上した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・授業力の向上・居がいのある学級づくりに継続して取り組み、学力向上に努めていく。 ・自分の考えを論理的に説明したり、的確に表現したりすることが苦手な児童・生徒が多い。 ・家庭学習の取組については、学年が上がるにつれて個人差が大きくなる傾向がある。賞賛や励ましなどの教師の関わり方の工夫が必要である。また、取り組むことのよさを一人一人に実感させ、質・量ともに向上をさせていく。

<道徳推進部会>

【児童生徒の実態】

- ・素直で穏やかな児童生徒であるが、発信が苦手だったり、遠慮がちだったりする児童生徒がいる。道徳の授業においては、低学年のうちは活発に発言するが、学年が上がるにつれて発言は減る傾向にある。小学校高学年・中学生になると、自己表現を好まない様子が見られるようになり、他者の意見を受け入れることに抵抗を感じる児童生徒が増える。

【部会のねらい】

- ・地域への愛着を持ち、地域に貢献できる。
- ・自己開示をしながら自分を見つめ、考えを表現(話す・書く)することができる。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・各段階の「心」の到達目標に関連する主題を確認し、年間指導計画に「カンピくん」マークをつけ、意図的に指導する。 ・自己開示のしやすい道徳の授業計画、発問や学習形態の工夫などの情報を交換し、共有化を図る。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・各段階の「心」の到達目標に関連する主題を確認し、年間指導計画にマークをつけることで、意図的な指導につながった。 ・自己開示のしやすい授業計画、発問や学習形態の工夫などの情報を交換することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自己開示として、児童生徒の考えの表現を「話す・書く」の両方を対象としたが、焦点化が難しかった。 ・小中一貫教育として、小中統一での課題を絞り込み、重点化したものを、継続的に取り組めるとよい。

<健康増進部会>

【児童生徒の実態】

- ・ゲーム等のメディアを長時間使うことによって生活習慣が乱れる傾向がある。
- ・ゲーム依存による不登校児童生徒もいる。

【部会のねらい】

- ・メディアをコントロールすることにより生活習慣を見直し、心の安定を図る。
- ・メディアを通さずに豊かな人間関係を築き、自己肯定感の向上を図る。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫の日や中学校の定期テスト期間に合わせたメディアコントロール・ウィークを実施する。 ・保健だより、学校だより、学校保健委員会により情報共有し、校内、家庭、地域との連携を図る。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアコントロール・ウィークを実施することで、自分のメディア機器の使用についての課題を振り返り、使用時間を減らすなど、自分のめあてに向かって取り組み、生活習慣を見直すことができた。 ・親子共にメディアの使い方について考える機会となり、メディアを使わなくなった分、家族の時間や家庭学習の時間が増えたという児童・生徒が多かった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアの使用については、家族の協力が必須になる。そのため、家庭への啓発をより意識していきたい。 ・アンケートの結果から、メディアの使いすぎにより、イライラしたり外遊びが減ったりするなど弊害があることが分かった。心の教育の面での影響がマイナスに働いているため、継続的にメディアの使い方について指導する必要がある。

<体力増進部会>

【児童生徒の実態】

- ・新体力テストの結果において、小学校5年生では全国平均を下回っているが、中学2年生では全国平均を上回る傾向にある。
- ・運動する、しない児童生徒の二極化が顕著である。
- ・全国平均と比べて、児童生徒の投力や握力(筋力)が劣っている。

【部会のねらい】

- ・運動習慣や技能、体力の二極化に対応し、苦手な児童生徒にも、「運動が楽しい」、「運動がしたい」という関心・意欲を育てる。
- ・運動に親しむ習慣を身に付ける。(外遊び、教科体育、業間運動や遊具の工夫)

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・運動習慣や技能・体力の二極化を解消するために、教科体育や業間活動を工夫し、児童生徒の体力(特に握力・投力)が向上できるように取組を行い、運動したいという意欲を高める。 ・運動に親しむ習慣を身に付けるために、休み時間における児童生徒の外遊びの機会を増やすよう、教員が外で運動したくなるよう児童・生徒に呼びかける。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・教科体育や業間活動において、各学校で工夫し、体力向上に努めた。握力では、器具(ハンドグリップ等)を活用し、投力では、紅白玉やジャベリックボールなどを活用することで運動への意欲が高まった。 ・秋に体力テストの2回目を実施した結果、春よりも記録が伸びた。 ・運動に親しむ習慣を身に付けるために、縄跳び大会や全校おにごっこなど工夫して行った。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・運動習慣や技能・体力の二極化が見られるので、まずは、運動習慣を身に付けさせる。 ・児童生徒の運動量をより増やすために教科体育の工夫をする。 ・教員も児童生徒と外で遊ぶなど、外で遊びたいような工夫を行う。

<食育部会>

【児童生徒の実態】

- ・市の課題である朝食摂取状況について、「毎日食べる」割合は小学校88.0%、中学校85.5%であり、前年度より改善傾向にある(平成30年10月調査)。しかし、朝食内容については依然として主食のみ摂取するなどの課題がある。

【部会のねらい】

- ・朝食の摂取率向上及び内容の改善に向けた取組により、成長期の自分の体と未来の自分を大切にすることを養う。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	<ol style="list-style-type: none"> ① 小学校全校(4年生または5年生を想定)で、学級活動における朝食指導を実施する。 ② ①の内容と成果を検証し、小学校他学年や現在中学校1年次に行っている指導内容の見直しを行う。 ③ 小・中学校9年間を見通した指導計画を作成する。
成果	<ol style="list-style-type: none"> ① 小学校全校及び中学校で、学級活動における朝食指導を担任と連携し実施した。 ② 給食週間期間中、全校で発達段階に応じた朝食指導を行い、その内容を家庭に啓発した。
課題	<ol style="list-style-type: none"> ① 小学校学級活動の指導内容と成果を検証し、小学校他学年や現在中学校1年次に行っている指導内容の見直しを行う。 ② 小中9年間を見通した指導計画作成に向けて、到達目標を示した「食育チャレンジシート(県教委HPよりDL)」の活用を検討する。

<児童・生徒指導部会>

【児童生徒の実態】

・昨年度から「あいさつ」を課題として取り組んできたため、学校内でのあいさつはよくなってきた。教師や委員会のあいさつには元気に答える児童生徒が増えた。しかし、自発的にあいさつができる児童生徒は少ない。特に地域において、交通指導員や見守りボランティア等、外部の人へのあいさつが消極的である。

【部会のねらい】

・時と場に応じて、気持ちを込めて自発的にあいさつする態度を養う。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつ運動」「あいさつ強調週間」を実施する。 ・児童会・生徒会活動との連携を図り児童・生徒主体の活動を行う。 ・交通指導員やボランティア等、地域の人への感謝の気持ちを育み、自発的にあいさつができるようにさせる。 			
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・各校において、委員会活動を中心に児童生徒が主体的に「あいさつ運動」に取り組み、「あいさつ強調週間」や「小中一貫あいさつ運動」において集中的に指導することで、校内でのあいさつは良くなってきた。 ・各校独自のあいさつに関する取組等、情報交換することで自校の指導に生かすことができた。 			
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・校内での指導が中心となってしまう、交通指導員やボランティア等、地域の人へのあいさつは、まだ十分ではない。さらに、地域と連携して取り組む具体的な手立てが必要である。 ・小学校においては、月1回の登校指導の際、あいさつの指導を徹底する。 			

<特別活動部会>

【児童生徒の実態】

・「学級力アンケート」の結果により、70%以上もの児童生徒が認め合い、感謝のできる学級であると回答している。残りの30%の児童生徒が他者の関わりから見てくると肯定的な回答できるように交流活動を計画（一人一人に役割を与えるなど）、実施していく必要がある。

【部会のねらい】

・児童生徒自らの手でよりよい学校づくりを目指していく中で、小中での交流活動を通して児童生徒の思いやりの心やコミュニケーション能力を育み、自己肯定感を高めていく。（交流活動を有効的に用いる）

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・小中クリーン作戦 ・あいさつ運動 ・石橋中学校説明会（6年生対象） ・学級力アンケートの実施（年3回を予定） 			
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・小中クリーン作戦、あいさつ運動、学校説明会を実施し、交流を深めることができた。 ・「学級力アンケート」をどの学校でも実施し、各学級における課題等を見出し、尊重・認め合い・支え合いの項目の数値の向上に向けて仮説を立て、検証することができた。 			
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫の行事では、さらに交流を深められるような場面の設定が必要である。 ・「学級力アンケート」を実施するだけでなく、その後の各クラスの話合いが必要である。実施しただけで終了しないで次に生かしていくという姿勢が必要である。 			

<特別支援・教育相談部会>

【児童生徒の実態】

・比較的の学校生活・集団生活に適應して生活できている児童生徒が多い。
・不登校、不登校傾向の児童生徒が年々増加している。

【部会のねらい】

・自立活動の充実を推進し、児童生徒の自己肯定感や所属感を高める。（B）
・教育相談だより等を共有し、各校の実践に生かす。（C）

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動における指導目標・指導内容設定シートを活用した自立活動の授業を実践し、互いに小中交流授業参観を実施する。 ・教育相談だより等を各校で共有する。 			
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・各校で「自立活動における指導目標・指導内容設定シートを活用した自立活動の授業の実践」をすることができた。しかし、交流授業参観に関しては消極的だった。 ・教育相談だより等を紹介することはできた。取組は達成できた。 			
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観に加え、可能なら指導主事から授業者への助言の場に共に参加するようにする。 ・個人が特定されない配慮をした上で、不登校の実態把握と情報交換を行う。 			

成果

- ・各部会において、児童生徒の実態からめざす児童生徒像を明らかにして、実践研究課題を受けたねらいを設定し、具体的な取組を考え実践することができた。
- ・研究チームに各部部长が所属することで、各部会の取組について情報を共有したり、児童生徒へのアンケート調査等、取組内容が重複しないよう調整したりすることができた。

課題

- ・実践研究課題についてすべての部会で研究を進めたことで、取組内容が多岐にわたり、研究チームとしては各部会の取組状況を共有することに終始してしまうことが多かった。実践研究課題に対する研究がより深められるよう、研究チームのあり方について再検討し、来年度の研究体制を整えたい。



小中あいさつ運動



小中クリーン活動



小中乗り入れ指導

メディアに関するアンケート（ 年） 令和元年 7月実施
 メディアに関するアンケートを実施します。該当する番号を右の□に書いてください。また、その他と答えた人は（ ）の中のことばで記入してください。

① あなたの性別は	
1 男子 2 女子	
② メディア機器（スマホ・PC・TV・タブレット等）をよく使いますか？	
1 使う 2 使わない ※2 使わないと答えた人はこれ以降は回答しません。	
③ どのようなメディア機器ですか？ いくつでもいいです。	
1 テレビゲーム機（抱え置き型） たとえは（ニンテンドウスイッチ・PS4・BOX・WiiUなど）	
2 携帯型ゲーム機 たとえは（ニンテンドウDS・3DS・LL・PSVita・PSPなど）	
3 電子ゲーム機 たとえは（たまごっち・ポケット&ピカチュウ・ゲーム&ウォッチなど）	
4 スマホ・タブレット	
5 パソコン	
6 その他（ ）	
④ どのようなことに使いますか？ いくつでもいいです。	

健康増進部会「メディアに関するアンケート」より

学級アンケート(高学年) ver.2.0
 年 組 番
 名 前

第 回 (月)

◎ このアンケートは、私たちの学級をよりよくするためにみんなが意見を出し合うものです。それぞれの項目の4～1の数字のあてはまるところに、一つずつ〇をつけましょう。

4：とてもあてはまる 3：少しあてはまる 2：あまりあてはまらない 1：まったくあてはまらない

目標をやりとげる力

① 目標 みんなで決めた目標やめあてに力を合わせてとりくんでいる学級です。[4-3-2-1]
 ② 改善 自分たちの学習や生活をよくするための話し合いや活動をしている学級です。[4-3-2-1]
 ③ 役割 係や当番の活動に責任を持ってとりくむ学級です。[4-3-2-1]

特別活動部会「学級アンケート」より